

環境省

市町村ごみをリユースへ

市場規模は推計3、4兆円

環境省は2010年度から、市町村が収集したごみに含まれるリユース可能な使用済み製品の実態把握やモデ

ル事業に着手する。10年度予算に「使用済み製品等の総合的なリユース促進事業費」として5300万円を盛り込んでおり、モデル事業に参画する市町村を募りながらリユース市場の概況調査、具体的な促進事業、普及啓発などに取り組む。

家電や酒びんなど、リサイクルされていたものをリユースに回す取り組みは従来から行われてきたが、新年度からの促進事業では、廃棄されていたもののリユースに着目。市町村が収集した粗大ごみのうち、家具や自転車などのリユース可能な使用済み製品の実態把握や、市町村と事業者

がタイアップしたモデル事業を実施する。普及啓発事業として6月の環境月間には、レジ袋に続く国民運動のアイテムとしてマイボトルのキャンペーンも予定している。

10年度に同省が業界団体を交えて行った意見交換会では、リユース市場の規模を中古品、古本、家電製品、パソコン、家具、古着、自転車、カー用品などで約3〜4兆円と推計(骨董品住宅は含まない)。自動車を除くと、年間67万トンがリユース品として流通し、短期的には一般廃棄物総排出量の1・3%に相当する廃棄物量の減少に寄与していると試算している。

10年度に同省が業界団体を交えて行った意見交換会では、リユース市場の規模を中古品、古本、家電製品、パソコン、家具、古着、自転車、カー用品などで約3〜4兆円と推計(骨董品住宅は含まない)。自動車を除くと、年間67万トンがリユース品として流通し、短期的には一般廃棄物総排出量の1・3%に相当する廃棄物量の減少に寄与していると試算している。